

2001年3月20日更新(今年も保全作業をしました)

長崎県では唯一佐世保市木原町に生息するグンバイトンボの生息地保全の作業が2000年3月26日に無事終了しました。

その後の様子をお知らせします。

環境庁はレッドリストの見直し作業を進めていましたが、4月にグンバイトンボが「**絶滅危惧類**」に選定されました。

***2009年現在 保全作業をした場所はイノシシに繰り返し掘り返されています。しかし、湿地には水が流れ込んでいますので、グンバイトンボは現在も健在です。**

また、新しい生息地も見つかり、木原町の個体群は健在です。現在も生息調査を継続しています。

グンバイトンボ(モノサイトンボ科)

体長36~39mm。幼虫は清らかで緩やかな流の水生植物が繁った川、湧き水を水源とする緩やかな流に生息します。

未熟な間は水辺から離れて付近の藪の中でくらしします。成熟すると水辺に戻り、メスを見つけると白い軍配状の肢を広げて見せます。連結すると付近の藪へ行き交尾をし、交尾がすむと水辺に戻り、連結したまま産卵します。メスは水生植物の組織の中へ産卵します。ここでは、ヤマトミクリに産卵をしています。

整備した畦の様子



(6月1日撮影)

畦に草が生えて見違えるようになりました。私たちが掘った水路には湿地から水がどんどん流れ込んでいました。これを見て湿地の中の水が動いていることを実感しました。流にはイモリがたくさんいました。



(4月7日撮影)

湿地は水が増え、昔はこうだったな～と思い出させてくれました。今年は間違いなくゲンバイトンボが産卵してくれることでしょう。



(6月3日撮影)

ゲンバイトンボのオス。肢の白いラインが目立ちます。湿地から300m程離れた木陰にいました。たいていのトンボは羽化したての若い間は水辺を離れ藪や草原で過ごします。成熟すると繁殖のために水辺に戻ります。



(6月3日撮影)

ゲンバイトンボのメス。6月3日にはオス2頭、メス2頭が観察されました。

「これまでの経過をご存じない方へ」

グンバイトンボは長崎県では唯一佐世保市木原町に生息します。清流の流れ込む湿地で、生息地のすぐ下には水田があり、稲作が行われています。ところが大雨になると、湿地から多量の水が溢れ水田が水に浸かるために、一昨年農家の方が、新しく水路を掘り湿地を経由せずに水を流すようにされました。

これまで水が流れ込んでいた湿地に水が入らなくなり、グンバイトンボの繁殖に影響が出るのが考えられましたので、農家の方に話をしたところ、「湿地と水田の境に土のうを積むなどして、大雨のとき水田に水がこなければよい。」と言われました。しかし、50mほどの長さに土のうを2~3段に積むのは大変な仕事です。そこで、従来の流れからパイプで水を引き込み、さらに別の谷から流れてくる細流の水を湿地に引きこむことにしました。ところがパイプは直ぐに詰まり、湿地の水源はほとんどが別の谷からの細流となりました。湿地は乾燥することはありませんでしたが、水が滞留するようになり、

2年間の観察ではグンバイトンボは減る一方です。このままでは近いうちに絶滅するでしょう。

そこで農家の方と地主の方に話をしたところ、湿地と水田の間に畦を作り湿地から流れてくる水を防ぐことが最も簡単で効果的との結論に至りました。

そこで、当会ではボランティアを募り畦造りの作業をお願いすることにしました。

……………3月11日……………

昨年苦労して造った畦がイノシシに壊されました。そこで3月11日(日)に再度畦づくりを行うことにしました。しかし、人力ではとても無理！そこでコンボを使うことにしました。機械を使用するので直ぐに終わるだろうと思ったら大間違い。コンボがたんぼに埋まって上手く行かず、途中大変心配しましたが、何とか終わることが出来ました。今回も市環境保全課にスコップの手配をお願いしました。保全課の職員3人、ボランティア9人(大人)小学生3人、中学生1人に地主さんも手伝ってくれました。10時から始め昼食もそこそこ済ませ、3時半に無事終わりました。



(6月1日撮影の分と比較してみてください)



(作業中、柔らかい土と格闘)



(完成！！畦を造ったというよりも、水路を造った。



02/6/2 の状況

と言った方が正確)

2011年6月

その後の様子を見に行った。田んぼは休耕田となっており、湿地状態だった。苦労して作った水路は跡形もなかった。しかし、ゲンバイトンボの生息地は健全。ここで4頭を確認した。



ゲンバイトンボの産卵地



ゲンバイトンボ♂